

困難乗り越え生まれた中辛 今につながるカレーの軌跡

利用者さんの工賃アップを目指し、平成26年7月に設立された「カレー工場」。安永さんを含めてカレー業とは無縁だった職員3人と、高い工賃がもらえると聞きつけた利用者12人からカレー製造事業が始まりました。当初は、某スパイスメーカーからの製造委託業務以外の仕事はなく、振るわない工賃に利用者も徐々に減少。このままではダメだと感じた安永さんは、オリジナルカレーの製造に踏み切ります。

できるだけ簡単な方法で、現状の設備で就業時間内に作ることができ、誰もが美味しいと感じるカレーを実現するため、業務後にオリジナルカレーの開発を続けた安永さん。約2年の月日を費やし、ついに「ジョブカレー」の定番「中辛」を完成させます。その後、利用者や他の職員からの意見で、「甘口」と「辛口」も誕生。工場オリジナルの「ジョブカレー」ができたことで、現在につながる12企業との取引や地域のイベントへの出店に結びつき、現在では、カレー工場の収益だけで黒字を維持する事業へと成長したのです。



① カレーの調理、袋への充填、計量・調整、真空化するための圧着、検品。各々の持ち場でライン作業をスムーズにこなす利用者たち。② ③から、圧着が斜め、圧着部分にカレー付着、空気の入りが過ぎという理由から不合格。一切妥協のない商品作りがモットー。④ 新商品のビーフシチューを製造中。



上の列④から、「ジョブサポートみろく」のカレー工場で主任を務める職員の安永雅幸さんと、工場に勤める利用者みなさん。

Information ▶ 第19回「豊徳祭」を開催します！



社会福祉法人「豊徳会」主催の一大イベント「豊徳祭」が今年も開催決定。多彩なステージや豪華景品が当たる「大抽選会」、地元飲食店による出店など楽しい企画が多数催されます。飲食ブースでは、「ジョブカレー」の出店・販売（1杯300円／左下のクーポン券持参で一杯200円）も！この機会に「ジョブカレー」を堪能してみませんか。

【EVENT GUIDE】

日時 ▶ 10月19日⑤ / 11～15時

場所 ▶ 方城体育館（雨天決行）

◎ 社会福祉法人豊徳会 ☎ 22-7705



ジョブカレークーポン券
100円引き
※第19回豊徳祭限定
※1枚1杯まで

最低賃金への工賃アップ 目指しさらに販路開拓へ

「ある利用者さんに初の工賃を渡した時、給料袋から1万円を出した瞬間の嬉しそうな顔が今でも頭に焼き付いています。たったの1万円なんだけど、利用者さんにとって価値のある1万円なんだと。頑張った良かったという感情と同時に、労働に見合う工賃をもっと出してあげたいと決意した瞬間でした。」

安永さんは、目頭を熱くしながら

今後の展望を見据えます。

「今の月額平均工賃は4～6万円ですが、今後の目標は最低賃金にまで工賃を上げること。そのためには、生産ベースを2500kg、12500食分に引き上げなければいけません。ジョブカレーは現在、カレー工場、伊方地区に設置する自動販売機、大分県と豊前市で展開するスーパー細川、イベント出店でしか販売していませんが、さらに販路を開拓し、ジョブサポートに通う利用者さんの工賃アップを目指していきます。」

Story 1 社会福祉法人 豊徳会「ジョブサポートみろく」

ジョブカレー

今年で設立10周年を迎えた「ジョブサポートみろく」の「カレー工場」。現在では多くのファンをもつ「ジョブカレー」ですが、その誕生には大きな困難が…。今に至るまでの軌跡と今後の展望をご紹介します。



大人気「ジョブカレー」で 運命を切り拓く挑戦へ

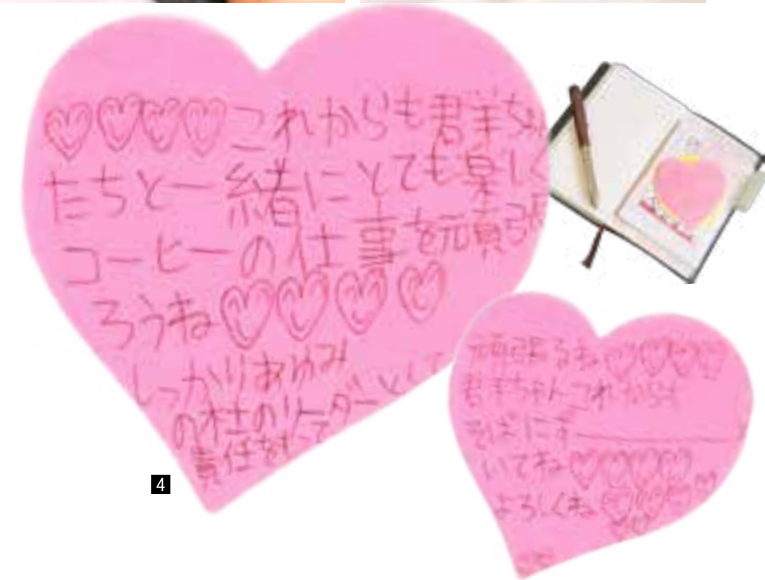
さまざまな要素が複合的に重なり合って生じる深いうま味が口いっぱいに広がったと思いきや、汗が吹き出るほどピリッとしたスパイシーな辛味が後から追いかけてくる「ジョブカレー」。

一度食べるとクセになる本格的なこの欧風カレーは、多機能型就労継続支援B型事業所「ジョブサポートみろく」の一角に設けられた「カレー工場」で製造・販売されています。

現在このカレー工場では、身体障がいや精神障がい、知的障がいなどのハンディキャップをもつ利用者10人が勤務。支援に入るスタッフ3人と一緒に、「ジョブカレー」や、企業から製造委託された他社ブランドのカレーなどを、毎月約1500kg、約7500食分も製造しています。今では「みろくのカレー」として多くの人に親しまれている「ジョブカレー」。「ここに至るまでには多くの困難があった」と、工場で主任を務める安永雅幸さんは振り返ります。



1・2 パッケージ袋に食品表示ラベルを貼る作業。専用の補助具を使い、テンボ良く丁寧に貼り進めていく利用者のYさん。3 衛生管理がなされた空間で、コーヒーの粉をドリップバッグに詰めていく利用者のAさん。グラム単位の繊細な調整を要するため、作業中の表情は真剣そのもの。4 利用者から石田さんへ毎日手渡されるお手紙。300通以上もの手紙は、いつでも見返せるよう手帳に挟んでいるという。



4



The Challenged

したが、実際に作業が始まると、各々のハンディキャップやその日の体調によってマニュアル通りに上手いかわることが多く、難しさを痛感した」という石田さん。それでも諦めず、利用者や支援員と力を合わせ、補助具を作るなどの試行錯誤を繰り返したといいます。結果、できなかった作業がひとつ一つできるように。「今では安定して作業・生産ができるようになってきました。人によっては『この作業を任せたら僕よりも上手』っていう利用者さんもあるんですよ」と、利用者たちの成長に、石田さんは思わず頬を緩ませます。

居場所作りと工賃アップ 理想へと大きく「じゃんぶ」

開所当時から通所している利用者のYさん。「じゃんぶ」の中では、周りを笑顔にさせるリーダー的な存在で、丁寧なラベルシール貼りに定評があります。一般的には、休みが嬉しいと感じる人が多い休日。Yさんは、「土曜日、日曜日、祝日：休みが嫌だ」と語るほど「じゃんぶ」が大好きだといいます。

「ここは私の家族みたいなところ。もらったお金を貯めて、みんなソフトバンクの試合に行くのが夢です。これからもみんなで楽しく

コーヒーの仕事を頑張ります」。

Yさんの純粋な想いと笑顔に、石田さんは優しい視線を向けます。「別の施設に馴染めず、『ここ』にたどり着いた利用者さん多いです。だからこそ、信頼関係を大切にして、利用者さんにとって気の休まる：Yさんが言うような家族のような環境にしていければと思っています。もちろん、自己実現に必要な工賃アップも絶対に諦めません。居場所づくりと、月額3万円台への工賃アップの両取りを目指し、今後も「じゃんぶ」で一致団結して、ミチフク珈琲の味と想いを皆さんに届けていきたいと思っています」。

Information ▶ 「ミチフク珈琲」の販売案内

現 在「就労継続支援B型事業所・じゃんぶ」と赤池・金田・方城郵便局と不定期でイベント出店で販売しています。今月から新ブランド「福智山麓キセキの珈琲」を新発売。また、「じゃんぶ」でしか買えない商品も多数ありますので、ぜひあゆみの杜へお越しください。在庫状況などはお電話ください。

【SHOP DATA】

住 所 ▶ 福智町神崎1533 (あゆみの杜)
営業時間 ▶ 平日10:00～15:00
電話番号 ▶ ☎ 0947-23-0903



一口飲めば満ちる幸福 駆け出した新たな挑戦

コーヒーの品種、精製、焙煎、粒度、粉量、湯温、湯量、抽出時間、デザイン、ストーリー……。どこをとつてもめんどくさいほどのこだわりをもつて造られている「ミチフク珈琲」。強い信念を感じるその味からは想像できないアットホームな

な雰囲気と、鼻をくすぐるコーヒーの芳ばしい香りが漂う、あゆみの杜「就労継続支援B型事業所・じゃんぶ(神崎)」で製造されています。障がいや難病というハンディキャップを抱える利用者6人が勤務する「じゃんぶ」は、昨年6月に開所したばかり。楽しく仕事しながらも経済的自立を実現するため、コーヒーの製造・販売に挑戦しています。

諦めない創意工夫の先に 花が咲いた利用者の成長

事業所の運営者であり、販売母体である「ミチフク珈琲」の代表を務める石田群さん。開所当時のことを「予想外の連続だった」と振り返ります。「開所するまでに生産方法を細かくマニュアル化し、ほぼ万全の状態で初日を迎えま



上の列④から、代表の石田群さんと職員の石田日奈子さん、下の列④から「じゃんぶ」に通う利用者のAさん、Yさん。

Story 2 あゆみの杜「就労継続支援B型事業所・じゃんぶ」

ミチフク珈琲

コーヒーが苦手な人でも「このコーヒーだったら飲める」と、注目を受けている「ミチフク珈琲」。幸福満ちる瞬間を生む一杯には、作り手と支える人の熱い想いが詰まっていました。



希望や適性に合う仕事で 社会参画するチャレンジ

内閣府公表の「令和5年障害者白書」によると、障がい者総計が約1,160万人という日本。これを日本の総人口で見ると、一概には言えないものの、国民の約9・6%が何かしらの障がいを抱えている計算に。その内64・2万人が企業などに「一般就労」、44・9万人が障がい福祉サービスを利用して「福祉的就労」を果たし、社会の一翼を担っています。

らなる福祉サービスを利用して就労することを意味する「福祉的就労」。原則2年以内の就労を目指し一般就労に必要な座学や実習を行う「就労移行支援」に対して、「就労継続支援A・B型」は、本人の希望や適正に合った仕事を自らが選択し、仕事に挑戦しています。

事業所がもつ3つの機能 立ちをはだかる大きな課題

田川地区障がい者自立支援協議会の就労支援部会長を務める森田慎一さんは、「チャレンジドにとつて『就労継続支援A・B型事業所』は仕事場という機能の他に、居場

Interview ▶ 「田川地区障がい者自立支援協議会」就労支援部会長・森田慎一さん

障がいを特別視しないで

日本には1,160万人のチャレンジドが存在し、その内約110万人が「一般就労」または「福祉的就労」に挑戦する現在。「福祉的就労」に取り組んでいるチャレンジドは、自分の希望や適正に合った仕事を自ら選択し、自己実現に挑戦しています。その想いと支える人の努力とは裏腹に、雇用契約を結ばないB型事業所には「工賃の低さ」という全国的に大きな課題が立ちはだかつています。チャレンジドを取り巻く現状や課題について、田川地区障がい者自立支援協議会の就労支援部会長を務める森田慎一さんにお話を伺いました。



PROFILE ● 森田慎一（もりたしんいち）
有限会社太陽が運営する、就労移行・B型・生活訓練「たいよう」の管理者・サービス管理責任者。障がいのあるかたが一般企業で働く、また働き続けることができる地域を目指すために、障がいのあるかたの就労等に係る現状や課題について、田川市郡の事業所・職業安定所・支援学校・企業等の関係者が集まり協議する「田川地区障がい者自立支援協議会」の就労支援部会長を務める。

所」と「経済的自立」の2つの機能をもっている」と語ります。居場所については「ハンディキャップがあることで、健常者と比べてどうしても他者との関わりが薄くなりがちなチャレンジド。事業所で仕事をする中で、仲間や職員、地域・仕事関係者などと交流を図ることができると、その機能は十分に果たされている」とした一方で、経済的自立については顔をしかめた森田さん。「福岡県の最低賃金は時給941円ですが、雇用契約を結ばないB型作業所の全国平均工賃は時給243円（月額では17,031円）と『工賃の低さ』が全国的な課題となっている」と指摘します。

が増加してきている」と話します。続けて「さらに最近では、福岡町にある『ジョブサポートみろく』の『ジョブカレ』や、『あゆみの杜』の『ミチフク珈琲』のように、障がいを言い訳にしないこだわりの自社ブランドを開発し提供する事業所も増えてきた」と事業所の取組を評価しましたが、その一方で最低賃金との差が以前埋まらない状況に『低工賃』という課題を解消する道のりはまだまだ遠い」と厳しく現状を分析します。

「人と人として」向き合う 障がいは特別な事じゃない

行政施策やメディアによる報道などで「昔前よりも社会的にチャレンジドへの理解が浸透してきていますが、企業であればチャレンジドの就労となると大きく2の足を踏んだり、個人レベルでも障がい者が作ったものという目で見られる現状は依然としてある」と残念そうに語る森田さん。「工賃の低さ」をはじめ、チャレンジドを取り巻くあらゆる課題を解決するには、障がいを特別視しない事」が最も大切だと力を込めます。

「人は自分が実際に触れたことがないものに対しては、不安や拒絶感を感じるもの。企業であれば実習を受け入れてみる。個人であれば、事業所や障がい福祉団体が開催するイベントに参加してみるなど、私たちの身近な生活の中にある、

チャレンジドと触れ合う機会に、ぜひ彼・彼女らと交流して知ってほしいと思います。知ること、障がいは特別なことじゃないと理解することができ、「健常者と障がい者として」ではなく「人と人として」向き合えるようになるはずですから」。

Information ▶ 「田川地区障がい者基幹相談支援センター」のご案内



田川地区の総合相談窓口として田川市と田川郡7町村が共同で設置する「田川地区障がい者基幹相談支援センター」。田川市郡在住の障がい（疾病）のあるかたやそのご家族、地域のかた、障がい福祉サービス事業所や相談支援事業所などの関係機関を対象として、心配・悩み事、障がい福祉サービスに関すること、権利擁護、地域移行・地域定着に関する相談受付や、専門機関の紹介などを行っています。相談や利用はすべて無料。お気軽にご相談ください。

【SHOP DATA】

住所 ▶ 田川市大字伊田2735番地13「スマイルプラザ田川」内
営業時間 ▶ 平日8:30～17:15 ※土曜日、日曜日、祝日、年末年始は休み
電話番号 ▶ ☎0947-23-0400
メール ▶ tagawa-kan@gaea.ocn.ne.jp
※ 電話、来所、メール、訪問などで相談に対応。／虐待対応は☎23-0415で24時間365日受付中

